

各障がいの理解と関わり方について1 ～聴覚障がい～

北海道立特別支援教育センター

1

1 聴覚障がいの状態

2

聴覚障がいとは

- 身の周りの音や話し言葉が聞こえにくかったり、ほとんど聞こえなかったりする状態
- 聴覚障害とは聴覚機能の永続的低下と環境との相互作用で生じる様々な問題点の総称である。
- 聴覚機能の低下が乳幼児期に生じると、やコミュニケーション技能上に、また、やに種々の課題を生じる一因となり得る。

「音」とは何か？

- 空気・水などの振動によって聴覚に引き起こされた感覚の内容。また、その原因となる空気などの振動。音波。

音の大きさ（騒音の目安）



ひたちなか市ホームページ
(<https://www.city.hitachinaka.lg.jp/soshiki/8/14/seikastukankyo/souonshindou/2461.html>)

5

音の大きさの単位（dB）について

デシベル（dB）は、倍率で表示すると桁数が非常に大きくなって分かりにくくなってしまう数値を、桁数を抑えて比較的分かりやすい数値にするために考えられた表示方法である。

デシベルの差	倍率	音の大きさ
0デシベル	1倍	人間の聴力限界
6デシベル	2倍	それより少し大きな音
10デシベル	3倍	静かな息
20デシベル	100倍	葉のカサカサ音
40デシベル	10,000倍	静かな図書館
60デシベル	1,000,000倍	一般的な会話
80デシベル	10,000,000倍	目覚まし時計
100デシベル	100,000,000倍	地下鉄の電車
120デシベル	1,000,000,000倍	飛行機の爆音

※20デシベルと40デシベルの差は、2倍ではなく、100倍である。

ホームページ「小学生でも分かるデシベル(dB)の話」より
(<https://macasakr.sakura.ne.jp/decibel.html#12>)

6

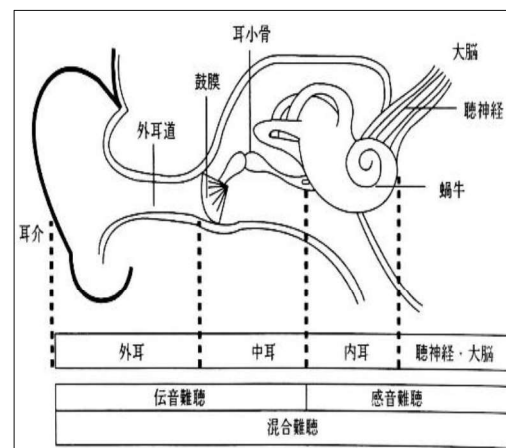
音の高さ（Hz）

- 音の高さ、いわゆる音の高低は振幅が揺れる振動数、つまり周波数で表され、ヘルツ（Hz）の単位を使います。
- 周波数が大きければ□音に、逆に周波数が小さければ□音になります。
- 人の場合は健聴者で約16Hz～20000Hzの幅の音が聞こえるとされています。

リサウンド補聴器ホームページ
(<https://resoundjp.com/wp/wisdom/%E9%9F%B3%E3%81%AE%E9%AB%98%E3%81%95/>)

7

聞こえと聴覚障がいの仕組み

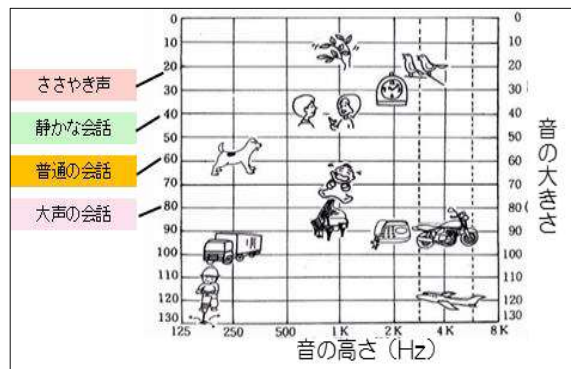


- 伝音難聴
- 感音難聴
- 混合難聴

「教師と親のための補聴器活用ガイド」大沼直紀（1997）

8

聴覚障がいの程度



「軽度・中等度難聴児の指導・支援のために一軽度・中等度難聴児をはじめて担当される先生へ」 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 (2012. 3) より引用

○ 難聴の程度

- 軽度難聴 (平均聴力レベル 25～40dB)
- 中等度難聴 (平均聴力レベル 40～70dB)
- 高度難聴 (平均聴力レベル 70～90dB)
- 重度難聴 (平均聴力レベル 90dB 以上)

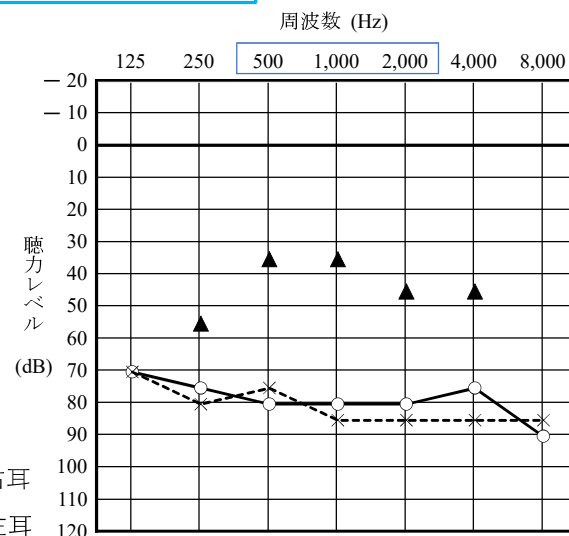
9

オーディオグラム

$$\text{平均聴力レベル (4分法)} = \frac{a+2b+c}{4}$$

a:500Hzの聴力 b:1000Hzの聴力 c:2000Hzの聴力

いわゆる「聴力」とは、「平均聴力レベル」を指す。

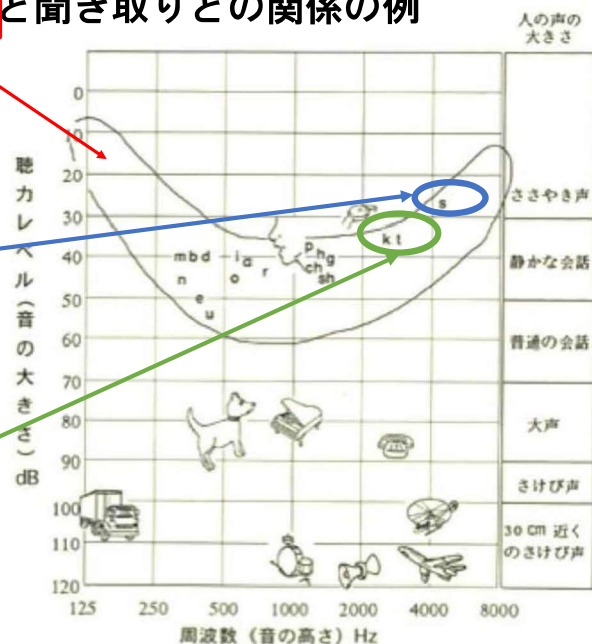


10

スピーチバナナと聞き取りとの関係の例

○サ行の子音 (s)
→4000Hz付近が、20～30dB程度の音圧で聞き取れなければ、弁別が難しい。

○カ行の子音 (k) と
タ行の子音 (t)
→2000～3000Hz付近が、30～40dB程度の音圧で聞き取れなければ、弁別が難しい。



家庭でできるドリルブック 人工内耳装用者と難聴児の学習 (学苑社) より

11

2 聴覚障がいによる生活上の困難さに対する理解

12

聴覚障がいによる困難さの例

- 人とのコミュニケーションを円滑に行うことができなかったり、や発話を理解することができなかったりする。
- 視覚的な手掛かりだけで判断したり、会話による情報把握が円滑でないためにとらえたりしやすい。
- 日常生活で必要とされる様々なや等の理解、あるいはそれに基づいた行動が困難である。

「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）」文部科学省（平成30年3月）

13

- 補聴器や人工内耳を装用していても、音や他者の話を完全に聞き取れるわけではない。
- 背後や外の様子等、を的確に把握できにくい。
- 物事がどのように推移してきたか、相手がどう思っているか、これから何が始まるかなどについて、予想できにくい。
- 体験したこととを結び付けることが困難。

「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）」文部科学省（平成30年3月）

14

各障がいの理解と関わり方について1 ～聴覚障がい～

北海道立特別支援教育センター

15